

情報通信審議会 情報通信技術分科会

I T U 部会（第 2 回）議事録

1 日 時 平成23年12月14日（水）11:00～12:30

2 場 所 第一特別会議室（総務省8階）

3 出席者（敬称略）

(1) 委員（50音順（敬称略））

鈴木 陽一（部会長）、服部 武、広崎 膨太郎、前田 香織

(2) 専門委員（50音順（敬称略））

浅谷 耕一、石崎 俊、今井 朝子、冲中 秀夫、生越 由美、加藤 寧、

永井 研二、橋本 明、藤本 正代、三輪 真、弓削 哲也

小林 哲、佐藤 明雄、三瓶 政一、都竹 愛一郎

(3) 総務省

久保田大臣官房総括審議官、巻口衛星移動通信課長、菱田国際政策課企画官、

田沼移動通信課企画官 他

(4) 事務局

布施田通信規格課長、深堀国際情報分析官 他

4 議事

(1) I T U - R 及び I T U - T の最近の動向について

(2) 「国際電気通信連合無線通信総会への対処について」に対する一部答申について

(3) その他

5 議事概要

(1) I T U - R 及び I T U - T の最近の動向について

事務局（布施田通信規格課長）から、資料 2 - 1 に基づき説明。

→ITU-T SG11の説明に中「信号要求」の記述について、「信号要求条件」への修正を希望。（浅谷専門委員）

→事務局了（布施田課長）

(2) 「国際電気通信連合無線通信総会への対処について」に対する一部答申について

資料 2 - 2 に基づき、総論を事務局から、各論について小林専門委員（資料第2章及び第8章）、

佐藤専門委員（第3章）、加藤専門委員（第4章及び第7章）、三瓶専門委員（第5章）、都竹専門委員（第6章）から説明。主な質疑は以下のとおり。

→研究委員会（SG）議長・副議長の任命に対する考え如何。（浅谷専門委員）

→人数を維持しつつ、専門性を持った方が議長・副議長に就任できるよう取り組む。（岩元係長）

→専門性に対する考えは。（浅谷専門委員）

→議長等の任命について地域バランス、性別バランスは決議にあるが、専門性については記されていない。日本としては専門性重視の立場である。（小林専門委員）

→ITU-TとITU-Rの協力・協調について、ITU-R側は決議6があるがITU-T側の対応状況は。（浅谷専門委員）

→ITU-T側にも決議18があり、整合は取れている。（岩元係長）

→1997年の採択も、この採択に基づきITU-RとITU-Tで決議を調整せよとの内容であったので、本来削除されるべきものが削除漏れになっている。そのため今回削除するもの。（小林専門委員）

→NGN(次世代ネットワーク)の柱として、FMC(Fixed Mobile Convergence)というものがある。ITU-RにおけるFMCの扱いは。（浅谷専門委員）

→SG5で扱っている。（三瓶専門委員）

→ITU-RとITU-Tが協力して取り組んでいないと聞いたことがある。（浅谷専門委員）

→有線系を固定網、移動系を電波でという意味と理解。ITU-R側はSG1がITU-Tとの窓口となっている。現在のところITU-T側から課題は上がってきていない。（橋本専門委員）

→FMCは、移動無線グループでの議論が世界の流れである。ITUではITU-Tが先導しているのに疑問。ITU-Rで標準化されないまま、欧州規格がそのまま進む危険がある。日本が取り残される可能性があるため、メーカーを含めてITU-Rでの検討を推進させる必要がある。（浅谷専門委員）

→ITU-Rでも考慮したい。（橋本専門委員）

→対処について「支持」とあるが、我が国として非常に重要だから強力に支持なのか、単に支持なのかこの資料では区別できない。我が国の戦略についてお聞きしたい。（服部委員）

→我が国として積極的に支持するもの、受入可能なものとしての支持、大勢の流れによる支持がある。（布施田課長）

→重点課題で非常に重要か、静観程度なのか、その程度は色分けして頂きたい。（服部委員）

→IMT-2000に関連して衛星系の議論があるが、我が国ではどこで議論しているのか。また、電気通信開発局（BDT）との連携の話もあった。

あと、750MHz帯のITS用バンドの割当について日本の立場をお聞きしたい。（服部委員）

- 衛星関係の議論は進展していない。我が国としても積極的に寄与はしていない。（巻口課長）
- 700MHz帯のITSは、資料記載の勧告には具体的な記述を我が国から出していない。IMT-Advancedについては勧告化で基盤ができたので、将来に向けた研究に次会期取り組む。（橋本専門委員）
- ITSに750MHz帯を入れないという話だが、日本としての姿勢をはっきりさせるためにも入れるべきである。（服部委員）
- 勧告には入っていないが、別のレポートとして出力する。（橋本専門委員）
- IMTの衛星系に関する勧告も、実態が無い中で支持とは理解できない。（服部委員）
- 勧告で参照している勧告番号の現行化という改訂案のため、問題なしとの意味での支持である。（橋本専門委員）
- SG6から、電力消費削減に係る新決議案が提案されている。環境関係はITU-TのSG5でも実施している。ITU-Tとの棲み分けと協調関係は。（前田委員）
- イタリアから放送関係機材の省エネ化として提案があった。放送に限らず無線通信全般に関係することから、SG6から提案する。ITU-Tとの関係も次会期以降、詳細検討がなされると認識。（宮澤補佐）
- 我が国の戦略に関わる部分は審議会会合を非公開としてもよいのでは。戦略的事項の議論の進め方について検討願いたい。（浅谷専門委員）
- 検討したい。（鈴木部会長）

質疑の後、資料2-2を一部答申とすることを決議。

(3) その他

総務省国際政策課（菱田企画官）より、ITU世界テレコムの結果、総務省・ITU災害シンポジウムの開催について紹介。

事務局より、次回会合は平成24年秋までに開催する旨通知。